

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-1	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
点検・評価項目(1)	4-1-1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
評価の視点	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示
	教育目標と学位授与方針との整合性
	修得すべき学習成果の明示
点検・評価項目(2)	4-1-2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
評価の視点	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示
	科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
点検・評価項目(3)	4-1-3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(4)	4-1-4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-1-1	大東文化大学学則第 2 条の 2 には「環境創造学部環境創造学科は、主として社会科学的な観点から地球および人間の環境に関する知識と手法を修め、その課題の発見と解決に創造的・実践的に取り組める人材の養成を目的とする」とある。 ＜ディプロマ・ポリシー＞環境創造学科は、卒業研究を含む所定の単位を修得し、環境問題や生活問題を解決するために、実践的で創造的な手法を身に付けていると認められる学生に卒業を認定し、学士（環境創造学）の学位を授与する。 「学位授与方針」ディプロマ・ポリシーは、それに基づき、1.社会科学を基礎に置き、既存の考え方に疑問を呈して、問題を発見し、解決していく能力を修得している。2. 環境問題や生活問題を分析し、その課題と解決法を発表できるコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を修得している。3. 社会貢献に役立つ語学・情報処理能力を身に付けている、と定めている。 従って教育目標と学位授与方針とは整合性を持っている形となっており、かつ修得すべき学習成果も明示している。
4-1-2	きめ細かい対応を実施し、カリキュラム改革を推進し、カリキュラム・ポリシーは以下のように明示している。 1. 複眼的な考察力を養うために、現場主義・実践主義・コミュニケーション主義をモットーとした教育を行う。 2. 社会科学に不可欠な調査方法および実社会において必要な情報処理・プレゼンテーション技法等を学ぶ。 3. エコシステムについての複合的・統合的知識を修得する。 4. ゼミを必修として、少人数教育で、プレゼンテーション等を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、かつ専門性の向上を図る。 5. 地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成するために、国内及び海外で研修等を行う。 6. 各自が問題を設定し、卒業研究を完成させる。 また履修の手引きにおいて、詳細に科目区分、必修・選択の別、単位数等を明示している。
4-1-3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は『CROSSING』や『履修の手引き』で広く周知されている。教務委員会はオリエンテーションや卒業研究発表会を企画し、学部のポリシーが有効性をもっていることを確認している。
4-1-4	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性の検証については、最低年に 1 度、『履修の手引き』改訂の際に教務委員会等で行っている。 ・学部の理念・教育研究上の目的が学則で定められたので、学部教授会等で教員に周知を図り、学生に対しても履修の手引きやガイダンス等で周知している。

【効果が上がっている事項】

4-1-1	ガイダンスほか「環境創造学入門講義」、ゼミなどでもカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの内容を周知している。 ・学部の理念・教育研究上の目的を研究ワークショップでも教員に周知を図り、学生にも履修の手引きやガイダンス等で周知され、学際性を活かす教育の在り方を検討しやすくなった。
4-1-2	学生の中には、主体的に「環境創造学」について取り組む姿勢がみられる。独創性のあるレポートが提出されている。ゼミ発表会や卒業研究発表会も行われ、教員と学生の間で学部のポリシーが再認識できている。
4-1-3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、教職員および学生等に周知されている。
4-1-4	

【改善すべき事項】

4-1-1	欠席しがちな学生を早期に見つけて相談の機会を設け、退学予備軍にならないように配慮する。
-------	---

4-1-2	
4-1-3	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、教職員および学生だけでなく、広く社会に発信・公表する「環境創造フォーラム」をさらに充実していく必要がある。
4-1-4	

Ⅲ 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

2013 年度『履修の手引き』、教務委員会議事録、学部内規規定。

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	カリキュラム再検討の継続とポリシーの見直し。各教員の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の周知度をアンケート調査によって継続的に検証する。	・ 退学率の減少（退学率 3.9%→3%） ・ 新カリキュラムと新しいポリシーが教授会で承認されている。 ・ 学部内検証システムの構築がなされている。	→					
14 年度 目標	教務委員会は、入学前の指導についても検証を行ってきたが、今後どのような改善が必要かを検討する。新入生全員参加のオリエンテーションの際に、大学での学びの特色を理解するようなプログラムを検討する。学部独自の初年次用のテキストの作成を検討する。FD に関して熱心に話し合われており、意見交換を通して課題解決型の PBL(Project-Based Learning)の展開を全教員が理解する。	・ 入学前教育の新たな展開 ・ 学部構成員が初年次テキストに着手する。 ・ FD 活動の積極的取り組みを行う	→					